

Japanese Graded Readers

レベル別 日本語多読 ライブラリー



にほんご よむ よむ 文庫

レベル **1** vol.2 **8**

笠地蔵

かさ

じ

ぞう



レベル別 日本語多読 ライブラリー

にほんご よむよむ文庫

レベル 1 vol.2 8

笠地蔵

あした かし しょうがつ かし
明日はお正月。おじいさんは笠
をうりにまちいり行きますが、ひと
う売れません。かえみちゆきなか
帰り道、雪の中にお
しぞうむつなら
地蔵さまが六つ並んでいて……。

にほんご よむよむ文庫



これは、にほんごべんきょうひとのための「読みもの」シリーズです。5レベルに分かれていて、むかしはなし、そうさく、めいさく、でんき、昔話、創作、名作、伝記などいろいろな話があります。レベルごとにことば、ぶんぽう、せいげん、言葉や文法が制限されていて、よみやすく書かれています。かんじ、すべ、漢字には全てひらがなが付いていますから、じしよ、ひ、辞書を引かないでどんどん読んでみましょう。

レベル	クラス	語彙数	文字数／1話
0	入門	350	～400
1	初級前半	350	400～1500
2	初級後半	500	1500～2500
3	初中級	800	2500～5000
4	中級	1300	5000～10000

にほんご よむよむ文庫 レベル 1

かさ じ ぞう
笠地蔵

再話（さいわ）：近藤 眞須子（こんどう ますこ）

挿絵（さしえ）：鯉江 光二（なますえ こうじ）

監修（かんしゅう）：NPO 法人 日本語多読研究会（にほんご たどく けんきゅうかい）

<監修者紹介>

NPO 法人 日本語多読研究会 (にほんご たどく けんきゅうかい)

とうけんきゅうかい がくしゅうしや の つく もくてき にほんごきょうし
当研究会は、学習者のための「読みもの」を作ることを目的に、日本語教師が
あつ ねん がつ はっせき ねん がつ ほうじん
集まって、2002年1月に発足しました。2006年9月にNPO 法人になりました。
べつ よ かいはつ つか たどく じゅうぎょう じっせん けん
「レベル別読みもの」を開発したり、それらを使った「多読」の授業の実践・研
きゅう
究をしたりしています。http://www.nihongo-yomu.jp

レベル別日本語多読ライブラリー (にほんご よむよむ文庫)

[レベル1] vol.2

笠地蔵

2007年6月1日 初版 第1刷 発行

2010年10月27日 初版 第2刷 発行

再話：近藤 真須子 (日本語多読研究会会員・日本語教師)

作画：鯉江 光二

監修：NPO 法人 日本語多読研究会

ナレーション：山中 一徳／篠原 明美

録音・編集：スタジオ グラッド

デザイン・DTP：浅妻 健司

発行人：天谷 修平

発 行：株式会社アスク出版

〒162-8558 東京都新宿区下宮比町 2-6

TEL.03-3267-6864 <http://www.ask-digital.co.jp>

印刷・製本：株式会社光邦

許可なしに転載・複製することを禁じます。

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

©NPO法人日本語多読研究会 2007

Printed in Japan ISBN978-4-87217-641-4

にほんご よむよむ文庫 レベル 1

かさ じ ぞう
笠地蔵

再話（さいわ）：近藤 眞須子（こんどう ますこ）

挿絵（さしえ）：鯉江 光二（なますえ こうじ）

監修（かんしゅう）：NPO 法人 日本語多読研究会（にほんご たどく けんきゅうかい）

あるところに、おじいさんとおばあさんがいました。

二人は、お金かねがありませんでした。明日あしたは、お正月しょうがつ（二月一日いちがつついたち）です。

おばあさんが言いいました。

「おじいさん、明日あしたはお正月しょうがつですから、おいしい食たべ物ものを食たべたいですね」

おじいさんが答こたえました。

「そうですね……」

おばあさん、笠かさを作つくりましょう。そして、それを売うりましょう」

おじいさんとおばあさんは、笠かさを五いつつ作つくりました。



おじいさんは、町^{まち}へ行^いきます。外^{そと}は雪^{ゆき}です。

おじいさんは、一時間^{いちじかん}ぐらい歩^{ある}きました。

道のそばに、石^{いし}の地蔵^{じぞう}が六^{むっ}つありました。

おじいさんは、地蔵^{じぞう}の前^{まえ}で言^いいました。

「お地蔵^{じぞう}さま、いつもありがとうございます」

おじいさんは、また歩^{ある}きました。







町へ来ました。

町には、たくさんの店がありました。

人もたくさんいました。とてもにぎやかです。

「かさ、かさあ、笠を買いませんかあ」

おじいさんは、何回も、大きい声で言いました。

町の人は、お正月の食べ物や、お酒を買います。

でも、だれも笠を買いません。



もう夕方ゆうがたです。

おじいさんは、うちへ帰かえります。

背中せなかには、笠かさが五いつつあります。

今日きょうは、雪ゆきがたくさん降ふります。

風かぜも強つよいです。とても寒さむいです。

おじいさんは、雪ゆきの中なかを歩あるきました。

そして、あの地蔵じぞうのところへ来きました。



おじいさんは言いました。

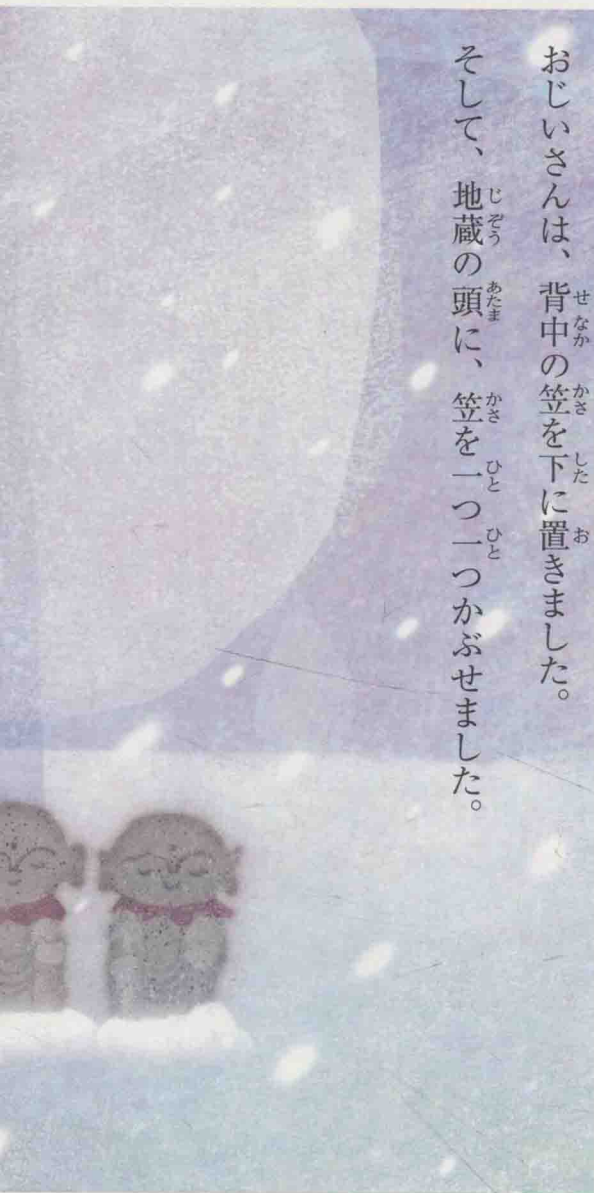
「あ、お地蔵さまの頭や体に雪が……。冷たいでしょう。寒いでしょう」

そして、地蔵の頭や体の雪をとりました。

「そうだ！ この笠をあげましょう」

おじいさんは、背中の笠を下に置きました。

そして、地蔵の頭に、笠を一つ一つかぶせました。







「あれ、困こまりましたねえ」

笠かさは五いつつです。でも、地蔵じぞうは六むっつです。

「どうしましょう……。そうだ、私わたしの笠かさをあげましょう」

おじいさんは、自分じぶんの笠かさをとりました。

そして、その笠かさを、地蔵じぞうの頭あたまにかぶせました。

六むっつの地蔵じぞうの頭あたまには、全部ぜんぶ笠かさがあります。

「これでいい。これでいい」

おじいさんは笑わらいました。